

# 関西広域産業ビジョンの改訂について

2018（H30）年5月28日

第1回関西広域産業ビジョン改訂委員会 資料

	Page
1. 検討スケジュール	2
2. 背景	3~4
3. 改訂の必要性、目的	5
4. これまでの主な取組み（戦略1~4）	6~9
5. 目標の状況	10~11
6. 改訂の方向性	12~14

# 1. 検討スケジュール

## ■改訂委員会での検討内容（案）

### 第1回(5月中・下旬)

- ・検討スケジュール、現状及び課題認識の共有
- ・現行ビジョンの構成確認、改訂の方向性を提示し意見交換
  - 関西を取り巻く状況
  - 関西が目指す将来像について

### 第2回(7月中旬)

- ・前回の議論(現状・課題認識、取り巻く状況、将来像)を確認後、意見交換
  - 目標値について
  - 戦略について

### 第3回(9月下旬)

- ・中間案(骨子)をもとに意見交換 ⇒ 全体構成のイメージを共有
  - ・前文
    - ・目指すべき将来像、目標値
    - ・戦略

### 第4回(11月中旬)

- ・中間案の提示
  - 前回議論をもとに、文章化したもので意見交換

### 第5回(1月中旬)

- ・最終案の提示
  - 産業環境常任委員会(12/8)及びパブリックコメント(12月)の結果報告  
(中間案からの変更箇所を報告)

## 2. 背景

### ■ 現行ビジョンの策定経過

- **平成22年12月**、関西全体の広域行政を担う責任主体を確立し、地域の自己決定、自己責任を貫ける分権社会を実現することを目指し、**関西広域連合が誕生**
- 今後進展する**人口の大幅な減少**や、**激化する国際的な地域間競争**のもと、関西産業の国際競争力を強化していくためには、関西が**国内外から認知される広域経済圏（メガ・リージョン）**を形成していくことが不可欠
- こうした認識のもと、広域連合の一員として一体的な取り組みを進めていくため、構成府県市において共有する「**目指すべき将来像**」と「**関西広域連合が当面（概ね10年）取り組むべき戦略**」を示した、「**関西広域産業ビジョン2011**」を**2012(H24)年3月**に策定

### ■ これまでの取り組み

- ・策定（2012 [H24] 年4月）以来、ビジョンに掲げる4つの戦略に沿った取り組みを実施
- ・年度ごとに各事業の達成目標を設定のうえ、PDCAサイクルによる進捗管理として、有識者等をメンバーとする「**関西広域産業ビジョン2011推進会議**」で毎年度の実施状況を評価・検証

## 2. 背景

### ■ 関西広域産業ビジョン2011の概要

関西が目指す将来像（長期[20～30年先]を展望したもの）

日本とアジアの結節点となる  
＜アジアとつなぐ関西＞

アジアとの繋がりや物流・人流のインフラ、ソフトパワーを活かして、アジアから「人・モノ・金・情報」を集める結節点

日本の成長を牽引する  
東西二極の一極を担う  
＜協創する関西＞

日本の東西二極の一極を担い、新たな協創で自らの地域魅力を高める世界に開かれたアジアの経済拠点

地域の魅力を支える  
豊かな生活圏を形成する  
＜新たな価値を創出する関西＞

多様な歴史・文化・観光資源を活用して、新たな価値を創出する、スローで豊かな生活を実感できる生活圏

#### 【目標】

30年後の関西（広域経済圏）の経済・産業の国内シェア25%、GRP約1.8倍（2010年度比）の約180兆円

広域課題に対応する新たな「関西経済活性化戦略」～日本の元気を先導するために～  
（関西が当面[今後10年を見据え]取り組んでいくべき戦略）

＜戦略1＞世界の成長産業をリードする  
イノベーション創出環境・機能の強化

＜戦略2＞高付加価値化による中堅・中小企業等の  
国際競争力の強化

＜戦略3＞「関西ブランド」の確立による  
地域経済の戦略的活性化

＜戦略4＞企業の競争力を支える高度人材の確保・育成

#### ※戦略の見直し

本ビジョンは、長期の目標を展望しながら、当面、取り組むべき戦略を設定。今後、戦略に基づく取り組みを進めていくことは当然のことであるが、社会状況の変化等、関西経済・産業を取り巻く環境の変化に応じて、必要に応じて本ビジョンを柔軟に見直すことが重要。また、見直しにあたっては、政策の継続性にも十分に配慮するものとする。

### 3. 改訂の必要性・目的

現行ビジョン策定(2012年3月)以降、関西を取り巻く環境は大きく変化

- ・少子高齢化社会の到来、就業構造の変化、雇用情勢の改善
- ・好調なインバウンド効果による関西経済の押し上げ
- ・第四次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット、シェアリングエコノミー等）、SOCIETY5.0\*など（新たな技術を社会・経済システムの革新につなげる）
- ・企業等、ビジネス分野における「持続可能な開発目標SDG s」〔2015.9国連採択〕の取組推進
- ・アジアの新興国市場等において6%を越える高い経済成長率の持続。ビジョン策定以降、T P P（環太平洋パートナーシップ）の署名〔2016.2〕や日 E U・E P Aの交渉妥結〔2017.12〕など、より広範な経済連携の進展によりグローバル化がさらに加速。
- ・2019年G 20サミット首脳会議の開催、2025日本万国博覧会開催に向けた誘致活動（万博のインパクトを関西の発展に活かす）等

\* SOCIETY5.0：①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会。新しい価値やサービスが次々と創出され、社会の主体たる人々に豊かさをもたらしていく。（「未来投資戦略2017」より）



これらの新たな状況を踏まえつつ、ビジョンの内容を再構築する必要

## 4. これまでの主な取り組み 戦略1：世界の成長産業をリードするイノベーション創出環境・機能の強化

### ○これまでの主な取り組み

#### ■ 特区（関西イノベーション国際戦略特区、国家戦略特区）

国際競争力向上のためのイノベーションプラットフォームの構築に向け、関西の自治体（京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、神戸市）が国に共同申請し、平成23年12月に**9地区**が「**関西イノベーション国際戦略総合特区**」として地域指定を受ける。（**全国最多となる51プロジェクト、93案件**が計画認定）

また、**国家戦略特区**については、関西圏（大阪府・兵庫県・京都府）における**認定事業数は27**となっている。

#### ■ 医療機器相談（2013[H25]年度～）

ものづくり企業の**医療機器分野への参入を支援**するため、事業化に向けた様々なステージにおける相談事業を実施

#### ■ メディカル・ジャパン（2014[H26]年度～）

医療に関する総合展「メディカルジャパン」を誘致し、ビジネスの場の創出や関西のポテンシャルを発信

⇒2018[H30]年2月に開催した第4回メディカルジャパンでは、31,245名の来場、1,225社の出展があり、開催3日間で**37.3億円の経済効果**(主催者集計)があった。

#### ■ グリーン・イノベーション研究成果促進フォーラムの開催（2014[H25]年度、2016[H27]年度～）

関西が高い産業ポテンシャルを有するグリーン分野での広域連合域内の大学・研究機関等の研究成果を域内外の企業に広く発信し、シーズの企業化を促進するため、「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」を開催。

関西イノベーション国際戦略総合特区や関西圏の国家戦略特区の指定など、関西の国際競争力向上のためのイノベーションプラットフォームの構築が進みつつある。また、メディカルジャパンにより関西のポテンシャルを国内外に広く発信。来場者数は初回比で約13%増と順調に成長。マッチング実績も上がっている。

⇒研究機関等が集積するメリットを活かしつつあるものの、国際的な研究開発拠点の形成という点では道半ば。

成長産業分野での世界のセンター機能を果たすため、**グリーン及びライフ分野のさらなる深化について検討が必要。**

### ○これまでの主な取り組み

- 大企業とのビジネスマッチング（2012[H24]年度～2015[H27]年度）  
府県市が実施するビジネスマッチング事業について、広域連合枠を設定。構成府県市主催の商談会を相互活用。
- 海外企業との経済交流（2016[H28]年度）  
関西企業が多数出展する大規模展示会等に海外機関や企業などを招聘。関西の産業ポテンシャル等のプロモーションを展開。
- 公設試の連携（2012[H24]年度～）  
域内の工業系公設試験研究機関の機器利用料金について、域内企業の利用時には割増料金を解消。  
各公設試の保有機器・依頼試験の検索機能や取組情報等の紹介機能を持つポータルサイト（関西ラボねっと）を運用。公設試間の連携を深めるため、内部向け及び外部向け研究会を実施。
- 海外展開支援（2012[H24]年度～）  
大阪府が世界7地域に設置している海外の企業支援拠点（ビジネスサポートデスク）の共同運用を実施し、中小企業等の海外展開を支援。
- 首都圏での販路開拓支援（2017[H29]年度～）  
デザインや実用性に優れた関西の工業製品（消費財）を首都圏の百貨店等において消費者向けに展示販売。

公設試の連携事業として実施している「関西ラボネット」は着実に利用者を伸ばしている。また、ビジネスサポートデスクの利用者数も増加しており、域内の中小企業等を総合的に支援してきた。

⇒ 今後は、これまでの取組みに加え、事業承継など、**中堅・中小事業者が直面する課題への対応方策等について検討が必要。**



### ○これまでの主な取り組み

- 国内プロモーション（2012[H24]年度～2013[H25]年度、2016[H28]年度～）  
デザインや実用性に優れた関西の工業製品（消費財）を発掘・ブランド化（「CRAFT14」）し、域外の大規模展示商談会に出展。連合のブースには2,500人以上の来場があった。
- 海外トッププロモーション（2016[H28]年度）  
台湾、香港において関西のエネルギーやライフサイエンス分野について、広域観光・文化・スポーツ振興局と連携して産業プロモーションを実施。セミナー参加者の81.4%が関西への関心度が向上。
- 海外産業プロモーション（2017[H29]年度～）  
域内のものづくり中小企業の海外における販路開拓を支援するため、アジア地域において海外プロモーションを実施。

海外や国内でのプロモーションを行い、関西への関心、認知度は一定向上。

⇒ 関経連が提唱する関西の地域ブランディングのコア・コンセプトである「はなやか関西」を共有した情報発信や、好調なインバウンドの活用などにより、**関西の魅力を広く発信し、「人・モノ・金・情報」を惹き付け、地域経済の活性化につなげる方策について検討が必要。**

### ○これまでの主な取り組み

- 目指すべき高度産業人材像の提示（2012[H24]年度）  
「関西における高度産業人材の確保・育成について」により、基本的な方向をとりまとめ。
- 高度産業人材に関する関西広域産学官連絡会議の開催（2013[H25]年度～）  
産業界、大学コンソーシアム、大学等の関係機関と広域連合において連絡会議を開催し、情報共有・意見交換を実施。
- インターンシップの実施促進（2014[H26]年度～2017[H29]年度）  
連絡会議においてインターンシップの重要性を確認。インターンシップに興味を持つ企業をまとめたリスト（225社・団体）や、優れたインターンシップの事例（55事例）を集めた冊子を作成し、関係者あてに配布。
- 人材に関する情報共有（2017[H29]年度～）  
「関西産業人材News Letter」を発行（2017[H29]年5月創刊）。経済団体や大学等に配布。

目指すべき高度産業人材像の提示や、インターンシップの促進など、これまでに一定の成果があったが、高度産業人材の育成にまでは至っていない。

⇒ 人口減少、特に生産年齢人口の減少は確実であり、有効求人倍率が1.5倍を超える（近畿2府4県、2018（H30）年1月）など、労働環境は大きく変化しており、特に中小企業にとっては**人材の確保が喫緊の課題**。人材はそれぞれの戦略に関わる課題であることから、**戦略4そのものの位置づけや取組内容・方策について検討が必要**。

# 5. 目標の状況

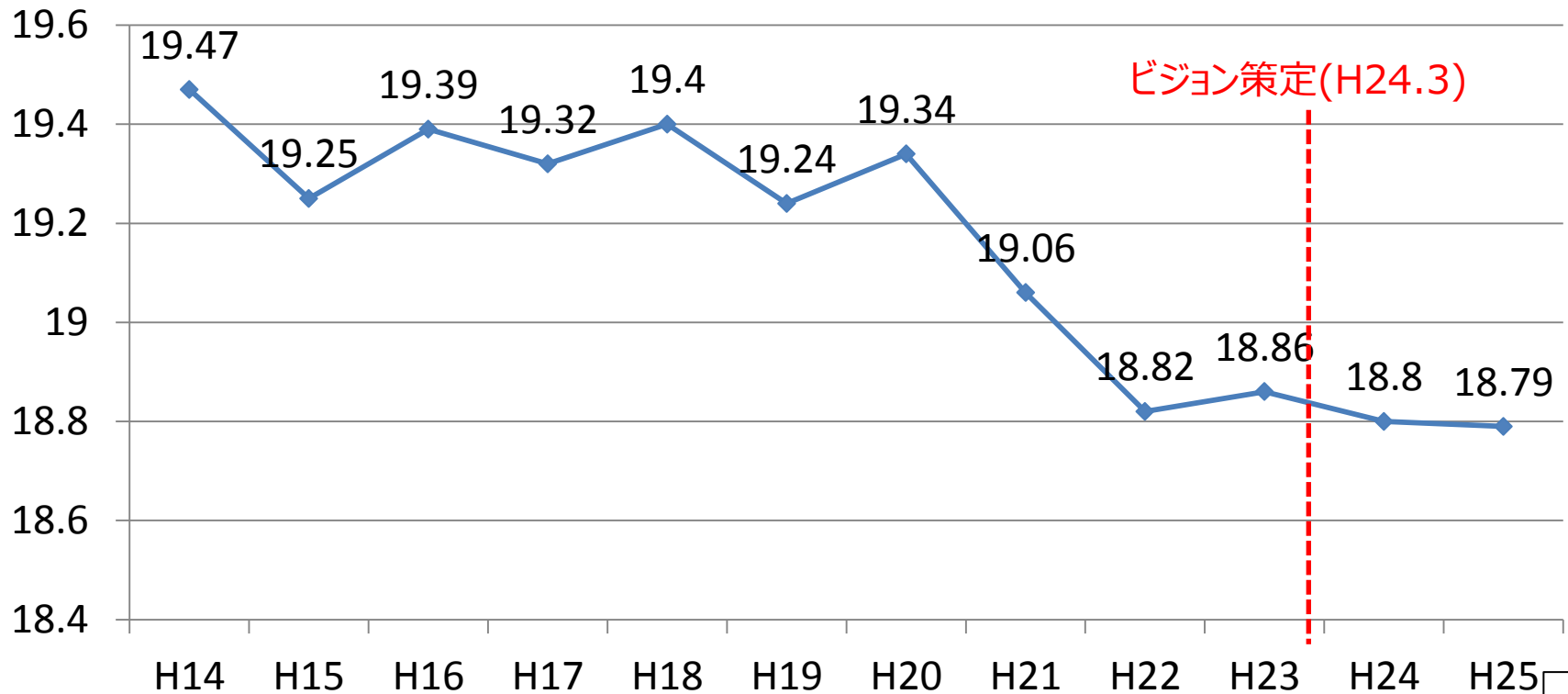
## ○目標

30年後(2040年度)\*の関西(広域経済圏)の経済・産業の国内シェア25%、GRP約1.8倍  
(2010年度比)の約180兆円

\*計画策定(2011年)から30年後

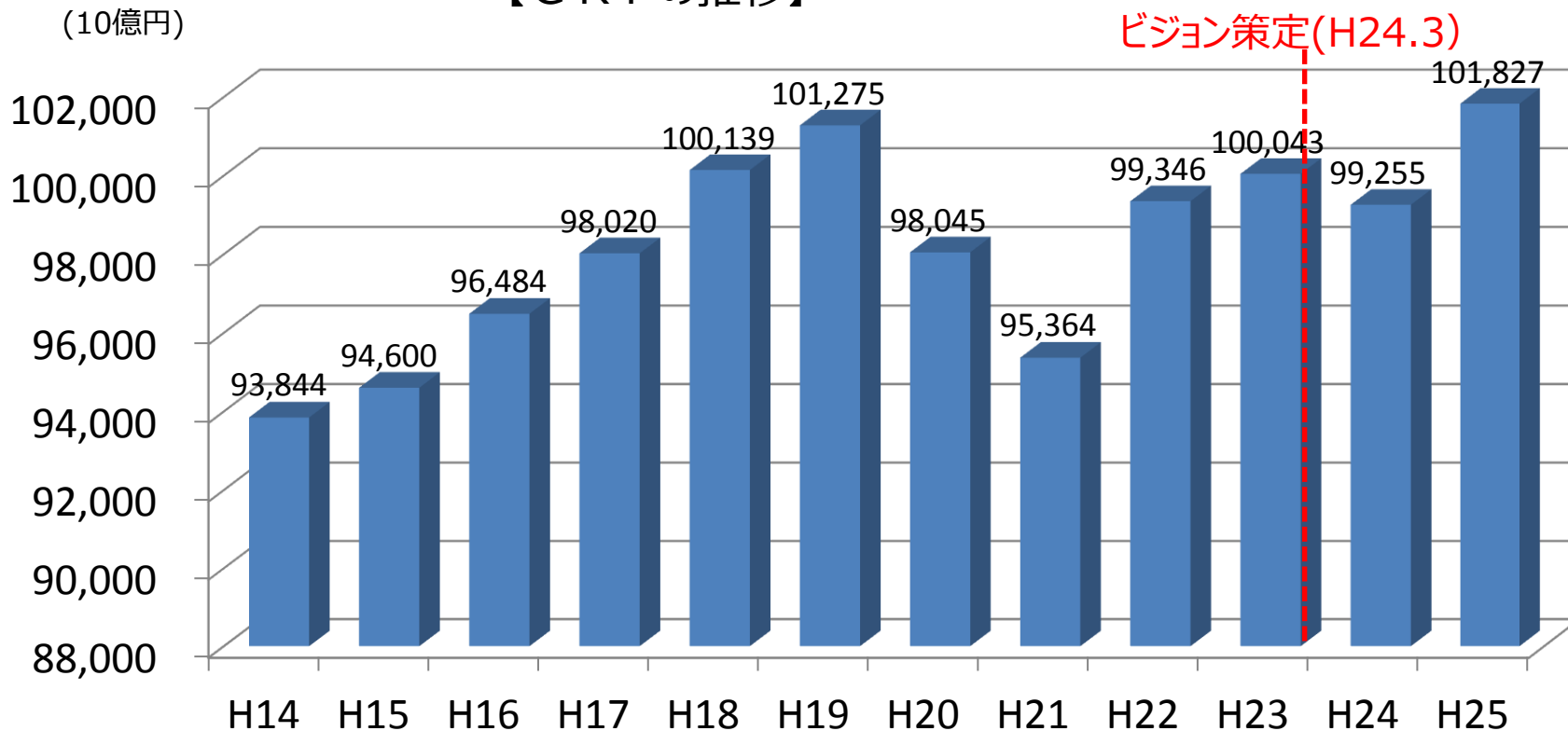
## ○現状

【国内総生産に占める広域経済圏※の割合】 ※福井県・三重県を含む広域経済圏



## 5. 目標の状況

### 【GRPの推移】



GRP及び国内シェアについては、ビジョン策定後、ほぼ横ばい。

## 6. 改訂の方向性

### 【基本的な考え方】

- 関西経済の方向性と、関西圏域での広域産業振興に関する施策の方向性を指し示すもの  
(広域産業振興に関する取り組みの基本指針)
- 各団体が策定している産業振興計画等（以下「既存計画」）の屋上屋は避ける。  
また、本ビジョンと既存計画は、上位下位の関係ではない。  
従って、既存計画に基づき、構成団体が独自に実施する施策等を縛るものではない。
- 産業ビジョン2011は、20年から30年という長期スパンをにらんで策定 → **基本的な骨格は維持**

### ◇ 現状認識・課題

#### ■ 現状認識

ビジョン策定以降の経済情勢や新たな課題を共有の上、内容の検討を行う。

#### 《検討の視点・論点》

- ・第4次産業革命の動き、人口構成変化による労働力の確保
- ・アジア近隣諸国の状況、関西経済の特徴とポテンシャルの再確認
- ・ゴールデンスポーツイヤーズ、万博誘致などのビッグイベントが関西経済に与える影響

## 6. 改訂の方向性

### ◇関西が目指す将来像

■今後、20～30年後を展望した、関西のありたき姿を示す。

《検討の視点・論点》

- ・日本とアジアの結節点となるべく、アジアの成長をどのように関西に取り込むか。
- ・日本の成長を牽引する東西二極の一極を担い、アジアの経済拠点を目指すには。
- ・多くの人を引きつける魅力ある地域としていくには。

### ◇目標について

(目標) 30年後(2040年度)\*の関西(広域経済圏)の  
経済・産業の国内シェア25%、GRP約1.8倍(2010年度比)の約180兆円  
\*計画策定(2011年)から30年後

《検討の視点・論点》

- ・目標の**見直しの必要性**について。

## 6. 改訂の方向性

### ◇戦略について

- 本戦略を構成府県市、経済団体、国等の関係機関と共有するとともに、適切な役割分担のもと、共通の目標に向かって、今後取り組むべき方向性を示す指針（アクションプラン）となるもの
- これまでの取り組み状況や実績等を踏まえ、各戦略を検証のうえ、再編も含め見直し

#### 《検討の視点・論点》

- ・イノベーション創出機能をどのように担っていくか
- ・中堅、中小企業の競争力強化や新たな成長分野への対応
- ・地域の魅力を生かした経済活性化方策
- ・人材力の強化、多様な人材の確保、生産性の向上

### ◇ビジョンの実現に向けて

- 「取組みの具体化」や「実施体制の確立」など、現状に応じた内容に変更。

#### 《検討の視点・論点》

- ・国や経済団体、分野間連携や産官学連携による施策展開
- ・（目標を維持する場合）引き続き2040年までの達成を目指すための手法。
  - 目標達成に向けた道筋（関経連目標(シェア20%)との関係整理)
  - 進捗確認のためのメルクマール(指標、KPI)の検討